

呼吸停止後、約何分経過で死亡率が50%となるか、次の中から選んでください。

- ①約5分 ②約10分 ③約15分



## 交通事故の被害者・目撃者になったとき

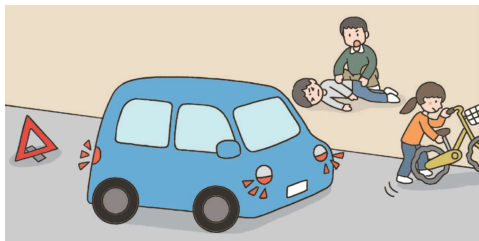
交通事故はいつ発生するかわかりません。ある日突然、交通事故の被害に遭うこともあれば、事故の現場に居合わせることもあるかもしれません。発生直後は動揺と混乱で取り乱してしまう可能性があり、できる限り冷静に正しく対処するためには、予め知識を得ておくことが大切です。「自分には関係ない」と思わずに、いざというときのため、被害者・目撃者になったときのことを考えてみましょう。

### 交通事故の現場で当事者が対応すべきこと

事故直後の現場は事故車両の破片の散乱や車両火災のおそれ等があります。また、後続車による追突事故等が発生することがあり非常に危険です。交通事故に遭ったときや現場に居合わせたときは、「安全の確保」「負傷者の救護」を行った後、「警察への通報」を行います。

#### ◎安全の確保

ハザードランプをつけ、後方に停止表示器材(三角表示板)や発炎筒を置き、事故が発生したことを周囲に知らせましょう。二次的事故のおそれがある場合や現場保存が難しいような場合は、事故車両を路側帯や路肩等の交通の妨げにならないような安全な場所に移動させ、エンジンを切ります。車体からのガソリン漏れがないかも確認しましょう。火災につながるおそれがあるため、事故現場ではタバコ等の火気は厳禁です。



#### ◎負傷者の救護

負傷者がいる場合は意識の有無や負傷の程度を確認し、119番通報とAEDの手配をします。119番通報では、救急であること、現場の住所(住所が不明な場合は交差点名や目印となる建物等)、負傷者の人数や程度、通報者の情報等を落着いて伝えましょう。自身が負傷していて通報ができない場合は、周囲の人に協力を要請します。通報時に応急手当の説明や指示を受けることもできますので、電話はスピーカーにして繋いだままにしましょう。通報者のスマートフォンから現場の映像を送信し、消防が状況をリアルタイムで確認した上で口頭指導ができる「Live119」のサービスも広がっています。専門知識がなくても対応できるよう助言もありますので、勇気をもって可能な限りの応急救護処置を行いましょう。



救護する際は、後続事故のおそれがある場合を除き、負傷者をむやみに動かさないようにします。特に頭部・首・腰は重大な怪我をしている可能性がありますので、注意しましょう。負傷者を動かす必要があるときや動かしても問題のないときは、歩道等の車が通らないところで、なるべく救急車との連携がしやすい安全な場所を選びます。意識・呼吸を確認し、呼吸がないときや判断に迷うとき、人工呼吸に抵抗があるときは、すぐに心臓マッサージを行いましょう。AEDは機器が電気ショックの必要性を自動で判断・指示してくれます。感染のおそれがあるため、止血する際はビニール袋等を使用し、直接血液に触れないようにしましょう。

#### ◎警察への通報(110番)

事故の大きさや負傷の程度にかかわらず、必ず110番通報しましょう。特に被害者になった場合に警察への届出を行っていないと、交通事故の発生を公的に証明する「交通事故証明書」が発行されず、保険金や損害賠償の請求ができなくなり、不利益を被ることになります。



